

## 平成 27 年度第 2 回宝塚市環境審議会

日時：平成 27 年 7 月 28 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：宝塚市役所 3 階 特別会議室

審議委員 出席 11 名 澤木委員、浅見委員、島田委員、島委員、梅宮委員、  
足立委員、久保田委員、矢野委員、波田委員、富士山委員、  
笹山委員  
欠席 4 名 佐藤委員、古川委員、遠藤委員、辰巳委員

### 次第

#### 1 開 会

会議成立の確認 … 成立

議事録署名人の決定 … 梅宮委員、久保田委員

傍聴人の確認 … 傍聴人なし

#### 2 議 題 第 3 次宝塚市環境基本計画の策定について

(1) 第 3 次宝塚市環境基本計画策定小委員会中間報告について

会 長：これまで 3 回の小委員会が開催されている。小委員会委員長の足立委員から中間報告  
をお願いします。

委 員：資料に基づき、小委員会中間報告を行う。(資料 4)

事務局：足立委員長の報告事項について、主に第 2 次宝塚市環境基本計画の期間中の取組状況  
及び総括についての補足説明及び報告を行う。

第 2 次宝塚市環境基本計画取組状況 (資料 2)

第 2 次宝塚市環境基本計画の総括 (資料 1)

会 長：ただいまの説明の質問、意見などをお願いします。

委 員：資料 1 P 1 指標評価の達成率で、大気・水質・騒音が悪化しているとの評価にな  
っているが、環境項目の設定が違っているためではないか。大気も水質も改善傾向にあ  
っていると思っているが、その辺り、評価として「悪化」とはどうか。

事務局：調査項目は、年々変動しており、その中で一部を達成していない項目がある状況で、  
項目全体における基準を達成している項目の割合として達成率を出しており、結果と  
して悪化という評価とした。

委 員：そもそも比較母数が違うものの率を出して比較し、「悪化」の評価が正しいとは思わな  
い。同じ項目について変化をあげるべきであり、誤解を招く原因。ひっくるめて達成  
率を比較するのは妥当だとは思わない。意見として出しておく。

事務局：ご指摘の内容を考慮して再度整理する。

会 長：表の上の総括の文章も整理が必要。文章中では、「ごみ排出量の増加などについて改善  
に向けた取組が必要」となっているが、表中では全国平均を下回っており評価は◎と  
なっている。

事務局：この点は修正する。

- 会 長 : 「自然環境について協働により改善や進展がみられる」とあるが、表からは読み取りにくい。保護団体数は出ているが、他は出していない。「協働の部分が改善や進展」していることかもしれないが、良くわからない。協働の部分が改善したのか、自然そのものが改善したのか。おいおい整理してほしい。
- 委 員 : 誤解を招くなら表の削除ではなく、疑問に対して、みんなに分かるような表にする方がより良い。大気の調査項目をあげた方が分かりやすい。
- 会 長 : もう少し下のレベル、具体的な項目をあげる方法もある。
- 事務局 : 指標の数値は把握できるものでまとめている。表現の変更で対応させて頂きたい。
- 会 長 : 温室効果ガス、総量は増えている。国勢調査では（多少年度はずれるが）人口増加が2.7%ほど。25年度は1人当たり排出量では減少しているのではないかと思われる。その部分を表現して、市民の取組の意識を高めることが必要。総括では増えている部分しか見えない。

## (2) 第3次宝塚市環境基本計画（素案）について

- 会 長 : 目次「第5章」のタイトルが抜けている。
- 委 員 : 2点。P2 総合計画の「共生のまち」の表現はどうか。P66 環境指標の目標に「一」はおかしい。
- 会 長 : 未定という意味か。
- 委 員 : 上の（ECO講座）はH32で428人の目標が入っている。
- 事務局 : H32としているのは第5次宝塚市総合計画後期計画（以下「総計」という。）で目標設定があるもの。目標のないものは、今後検討していくもの。
- 委 員 : 書けないなら削除すればよい。最終的に数字が入るのか。
- 事務局 : 増加とか減少になるかと思う。
- 委 員 : 目標が設定できないのなら、とってしまえばよい。
- 事務局 : 進捗を見るうえで、この指標が有効と考えて項目をあげている。
- 会 長 : 数値を示すものと、定量的な目標を入れなくても、こういう指標で点検するという項目もあるのか。位置づけはどうか。
- 事務局 : 目標を数値で示すものと、結果として見ていくというものがある。
- 会 長 : それらの項目について分類しないと、混乱する。
- 委 員 : 総計の方はどうか。
- 事務局 : 総計は作成済みのもの。
- 委 員 : どうしたら変えられるか。
- 事務局 : 総計策定に関するパブコメなどでご意見を頂きたい。
- 委 員 : P50 大気環境の保全の4行目 「自動車の排気」は何を指すか。
- 事務局 : 石油燃料を燃焼させた排気ガス。
- 委 員 : 軽油の排ガス規制は都府県によって制限がまちまち。健康に関わる問題。自動車排気関連の取組を充実してほしい。
- 委 員 : 目標値について。H32、H34、H62とばらばら。次期明記のないものはいつが目標か。H32のものについては、環境基本計画として新たに設定するのか。
- 事務局 : H32年は総計の目標。H62年は2050年、エネルギービジョンの目標。記入のないも

のは、環境基本計画の目標年度H37年となる。

委員：H32年の目標は、それ以降H37年までの目標を新たに設定するのか。

事務局：総合計画の目標設定に合わせて見直しを考えている。

委員：上位計画で設定されているものは、環境基本計画として目標を作らないということか。

事務局：上位計画が設定しているものは、それ以上の目標は設定しづらい。第6次宝塚市総合計画の策定の段階で見直しを掛けていく。

委員：環境基本計画の中で、環境指標の注釈が必要（総合計画での目標など）。別の計画で設定しているものは、その旨を明確にしてほしい。

委員：大気環境の達成率の目標100%は望ましいが、国外からの飛来など改善が見込めないものがある。光化学オキシダントはほとんどの測定局で基準を超えている。目標100%は良いが、それに対する施策が明確にならないと、目標の意味はないのではないかとと思う。

事務局：理論的には、環境基準が定められているものについては、すべてを満たすのが理想。それを目標にして取り組んでいきたい。国外の影響も想定されるが、市としての措置の具体策は難しいが、現段階の目標は100%としている。改善見込みのない物質を省くこともできない。ご意見を踏まえて、対応を検討したい。

会長：増減のベクトルをおいているものは数値をおけないのか。とりあえず5年間の目標を設定して、やった結果を検証しながら、達成可能な数値に置き換えていく方法もある。数値がとれるスリムな指標に置き換えるとか、大気も全部ではなく、二酸化窒素は100%を目指すとか、光化学オキシダントとPM2.5の無理なものは外すとか、現実的に取り組める目標にしなければ目標設定の意味がない。

委員：P41 ごみは市民の関心事。例えば地域の環境に悪影響を与える、「ごみ屋敷」の対応について、条例を設定するなど市の取組としてあげる必要がある。

会長：それは「循環型社会」よりも、生活公害なら「安全で快適な環境づくり」が適している。ごみ屋敷の対応は行政では難しいか。

事務局：道路上に出すごみ、火災の心配、害虫の発生などの問題を総合的に捉えて対応している。

委員：勧告と強制は違う。対策をどんどん進める必要がある。

委員：宝塚市でどう取り組むかの方針が抜けている。行政の筋の通った方針。「環境都市・宝塚」など端的なものも必要だが、宝塚がどのような環境都市を創るのか、目指すのか。タイトルだけではなく、考えを分かるように載せて頂きたい。今気になっているのは、ハトやカラス、ネコへのエサやり。ちょっとした困ったことへの対応に迷うことがある。

委員：P1～第1、2節は環境基本計画、第3、4節は計画→表記統一。

第3節 計画の対象→「計画の基本的な枠組み」

第3節 2.「対象とする環境要素」は分かりにくい→この部分は見直し。P36の施策の体系はわかりやすい。区分を合せる方がよい。第3節 3.「対象とする主体」は表現が固い→「対象とする団体」「対象とする人」などにする。

第3節は重要なところ。市民に分かりやすくしてほしい。

委員：みなさんの意見は「わかりやすく」といわれている。目標も内容も、一般市民にわか

りやすくしてほしい。指標設定も項目設定も、難しく考えないで修正してほしい。目標の基準は26年度が望ましい。26年度が出ないものは注釈をつける。

会 長 : 小委員会の資料では、市民へのわかりやすさを意図してイラストが入っていた。場所の問題やイラストにもよるが文字ばかりではどうか。市民に分かりやすいという意味では、なんらかの表現の工夫、検討して頂きたい。

委 員 : イラストは反対だが、グラフィック的に考えれば何とかなる。

委 員 : 3Rを図式化したりイラストを作って示すのはよいが、写真や人物が出てくるものは訴える力が失われたり、間違われたりする。

委 員 : P56 騒音 目標に相談件数の減少は適切か。取組によって騒音を減らして結果として相談が減るのは良いが、相談自体を減少させるのは目標としていかがか。

事務局 : 減少させるものを指標にあげるのは難しい。無作為によって減るのか、対象となるものが減るのか、いろいろな要因がある。対策の成果として相談件数が減るというのも指標ではないかと記載している。

会 長 : 相談は市民との情報共有の場なので、いろんな形で相談してもらって増やしても構わない。騒音の苦情は減らすべき。性格の違うものが入っているので、仕分け・整理してほしい。

委 員 : 結果の評価の指標にはなるが、目標値にはならないと思う。目標は騒音、悪臭をなくすことを目標としてあげるべき課題だと思う。

会 長 : 目標と指標値の意味づけ。目標なのか政策を評価する判断指標として使うインデックスなのか、切り分けて考えた方がよい。

会 長 : まだ、資料の内容を良く見ることができていない部分がある。各委員は2週間程度の期間の中で、ご意見を事務局に伝えて頂きたい。

### 3 その他

事務局 : 当初の日程では、8月、9月に小委員会の開催を予定していたが、本日意見のあった記載内容の整理に時間をいただきたいことや環境活動団体等へのヒアリング8月に実施することから、予定を変更し、小委員会の開催時期を先に延ばしたいと考えている。また、後期基本計画が8月にパブリックコメントを経て、12月に議決予定となっており、上位計画との整合をとる必要がある。

(日程の延長について、委員から異議なく承認を受ける。)

### 4 閉会あいさつ(酒井環境部長)

環境部長 : 貴重なご意見に感謝する。限られた時間で、意を尽くせない発言もあったかと思う。

後程でもご指摘を頂ければと思う。どういう表現ができるか、ご意見の反映の方法も検討していきたい。環境団体のヒアリング、総計の検討、庁内の検討も含めて、基本計画に反映させてお示ししたい。

### 5 閉 会

以上